第２章　地域の概況

第１節　地域の概況

１．自然的要素

本広域は、木曽谷を中心として西に御岳山、東に木曽山脈が位置する、南北約 60km、東西約 50km に及ぶ広大な地域となっている。木曽谷に沿った山麓部の丘陵地、山地などから構成されており、地形は総じて急峻で平坦地は少なく、集落・市街地はその多くが木曽川やその支流沿いに形成されている。面積の 90%以上が森林、またそのうち 60%以上が国有林である。気候は冷涼で、豊かな自然を生かした観光・交流を特徴とする地域である。

２．社会的要素

本広域は、平成 11 年 4 月に木曽福島町、上松町、南木曽町、楢川村、木祖村、日義村、開田村、三岳村、王滝村、大桑村、山口村の 3 町 8 村で発足して以来、広域管内のごみ処理事業を担ってきた。

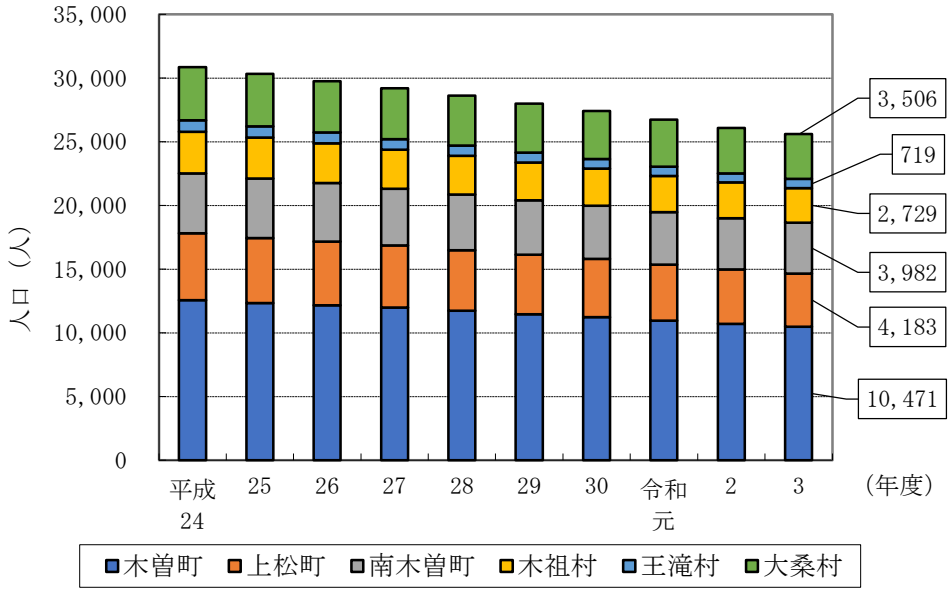
平成 17 年 2 月に山口村は岐阜県中津川市と合併し、平成 17 年 4 月には楢川村が塩尻市と合併したことにより、いずれも本広域から脱退した。平成 17 年 11 月には、木曽福島町、日義村、開田村、三岳村が合併して木曽町となったことにより、本広域の構成町村は 3 町 3 村となって現在に至っている。

第２節　人口動態

１．人口の推移

本広域管内人口の推移を図 2.2.1 に示す。

本広域管内の人口は減少を続け、令和 3 年度は 25,590 人となっている。いずれの町村の人口も減少の傾向にあり、平成 24 年度から令和 3 年度の 10 年間で 17.1%、1 年当たり約 585 人の減少となっている。



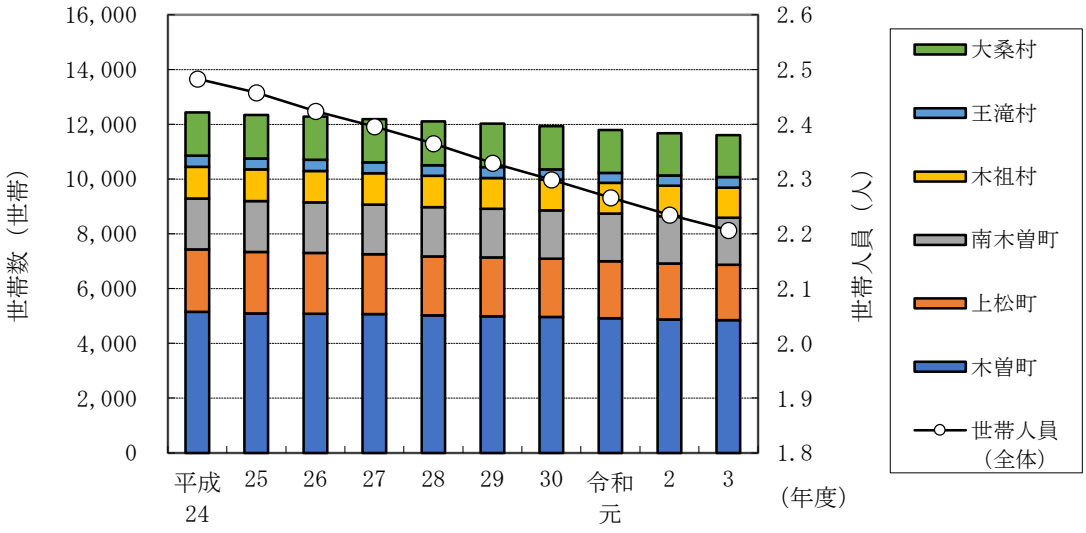
住民基本台帳人口、各年 10 月 1 日現在

図 2.2.1　人口の推移

２．世帯数と世帯人員の推移

本広域管内及び各町村の世帯数と世帯人員の推移を図 2.2.2 に示す。

本広域管内の世帯数、世帯人員はともに減少傾向にある。世帯数は、平成 24 年度から令和 3 年度の 10 年間で 6.7%の減少となっている。令和 3 年度の世帯人員は、2.21 人である。



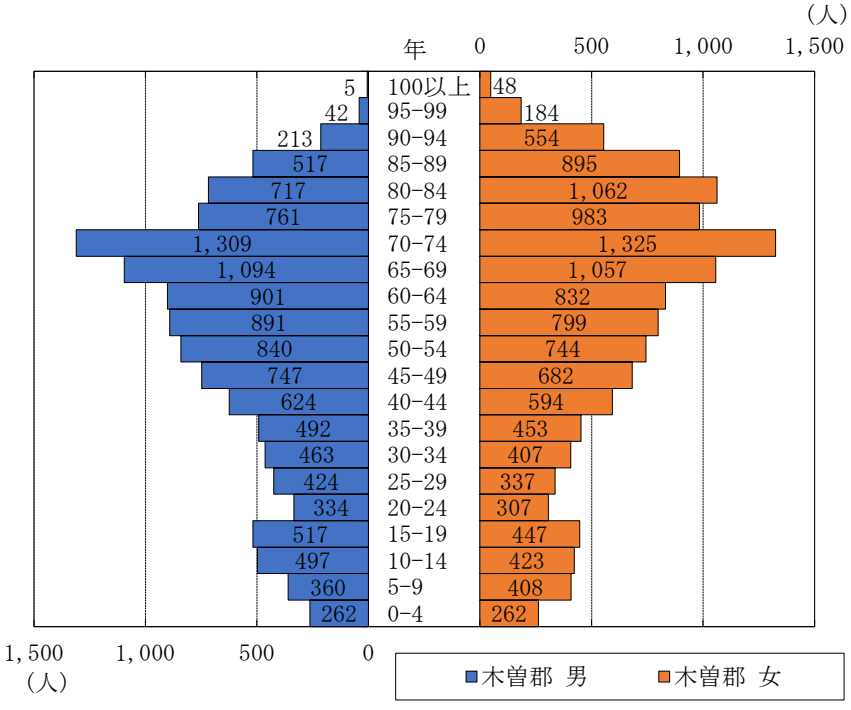
住民基本台帳人口、各年 10 月 1 日現在

図 2.2.2　世帯数と世帯人員の推移

３．年齢、性別構造

本広域管内の年齢、性別構造を図 2.2.3 に示す。

男性、女性ともに 70～74 歳人口が最も多くなっている。65 歳以上の高齢者が人口に占める割合は約 43%、15 歳未満の占める割合は約 9%となっており、少子高齢化が進んでいる。



毎月人口異動調査、令和 3 年 10 月 1 日現在

図 2.2.3　本広域管内の年齢、性別構造（令和 3 年度）

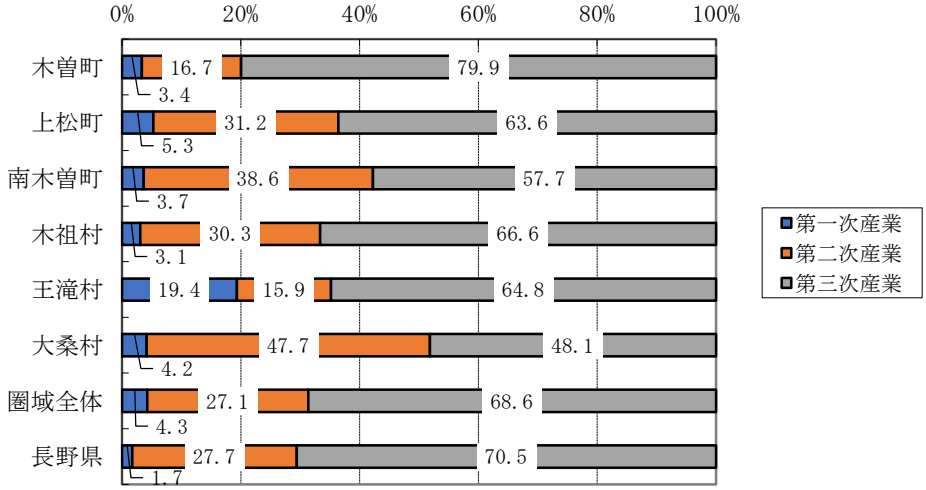
第３節　産業構造と動向

１．産業構造

本広域管内の産業別の就業人口を図 2.3.1、表 2.3.1 及び表 2.3.2 に示す。

本広域全体では、第１次産業が 4.3%、第２次産業が 27.1%、第３次産業が 68.6%の構成となっており、長野県全体と同様の割合となっている。

町村別では、王滝村は第１次産業の割合が、南木曽町及び大桑村は第２次産業の割合が、木曽町は第３次産業の割合が、それぞれ高くなっている。



注）この令和３年度の集計結果は、結果を早期に公表することを目的として集計したものであるため、確定数として後日公表する確報集計結果とは必ずしも一致しない。

経済センサス、令和３年６月１日現在

図 2.3.1　産業別就業人口構成（令和３年度）

表 2.3.1　第２次産業の構成割合（令和３年度）　　単位：%

第２次産業	長野県	広域全体	木曽町	上松町	南木曽町	木祖村	王滝村	大桑村
鉱業、採石業、砂利採取業	0.3	1.7	2.0	0.2	2.5	0.4	5.9	2.5
建設業	25.7	38.9	52.7	40.5	25.8	53.5	34.1	22.7
製造業	74.0	59.4	45.3	59.3	71.7	46.1	60.0	74.9
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

注）端数処理のため、内訳の計が 100.0 とならないことがある。

表 2.3.2　第３次産業の構成割合（令和３年度）　　単位：%

第３次産業	長野県	広域全体	木曽町	上松町	南木曽町	木祖村	王滝村	大桑村
電気・ガス・熱供給・水道業	0.7	1.9	1.0	7.7	0.4	0.3	1.9	0.3
情報通信業	2.2	0.4	0.7	－	0.1	－	－	－
運輸業、郵便業	5.1	4.8	5.1	6.8	4.7	2.7	0.7	3.5
卸売業、小売業	29.0	23.4	22.4	27.2	22.3	26.5	12.2	27.5
金融業、保険業	2.9	1.2	1.6	1.3	0.9	－	－	0.5
不動産業、物品賃貸業	2.0	0.7	0.5	1.1	1.7	0.6	－	0.2
学術研究、専門・技術サービス業	13.4	19.5	18.1	16.5	27.3	15.8	43.9	12.8
宿泊業，飲食サービス業	13.7	14.8	14.1	16.4	15.4	17.8	9.5	15.4
生活関連サービス業、娯楽業	6.1	6.7	6.9	4.3	8.9	7.6	6.0	6.0
教育、学習支援業								
医療、福祉								
複合サービス事業	2.6	5.2	4.8	3.6	6.4	5.3	5.3	7.9
サービス業	18.0	14.0	16.6	10.1	5.6	14.4	9.5	19.9
公務	4.2	7.4	8.2	5.1	6.2	8.9	11.0	5.9
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

注）端数処理のため、内訳の計が 100.0 とならないことがある。

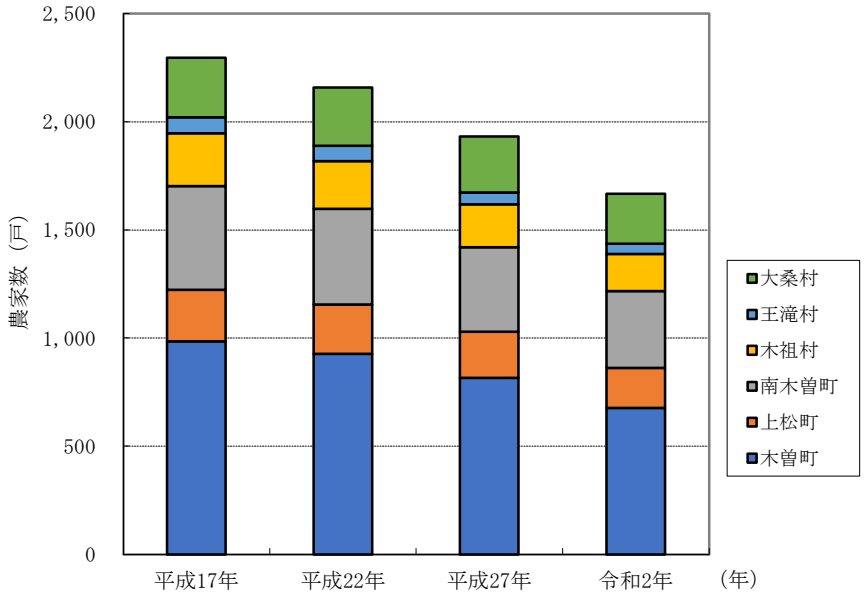
２．農業・林業

本広域管内の農家数の推移を図 2.3.2 に、林家数の推移を図 2.3.3 に示す。

農家数、林家数ともに減少の傾向にある。

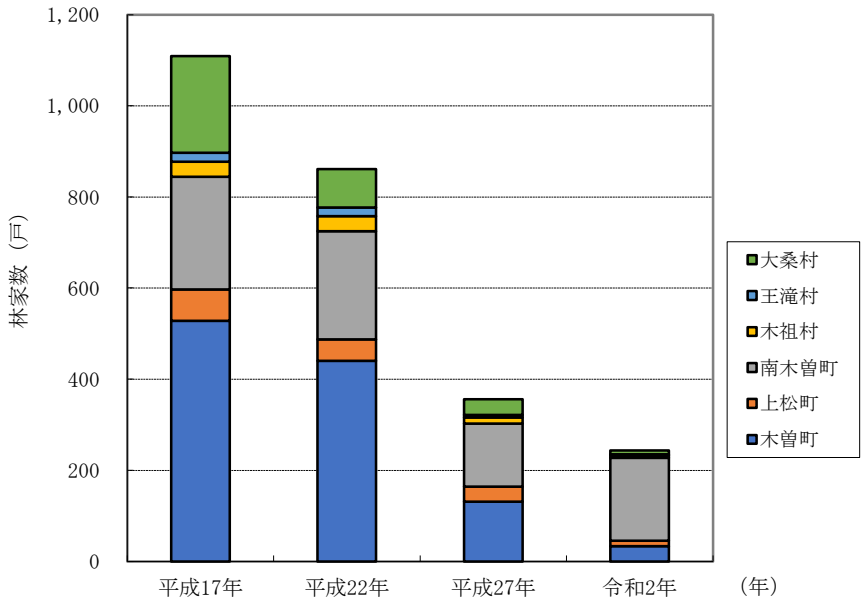
農業では、「御嶽はくさい」を中心にスイートコーン、さやいんげん等の野菜と「木曽牛」が主要な品目であるが、農業従事者の高齢化や担い手の不足による野生鳥獣被害の増加により、生産活動の低下、農地の遊休化が進んでいる。

林業では、森林資源が豊かで「木曽ヒノキ」の産地として有名であるが、輸入木材との競争による木材価格の低迷などにより、林業は不振が続いている。



農林業センサス

図 2.3.2　農家数の推移



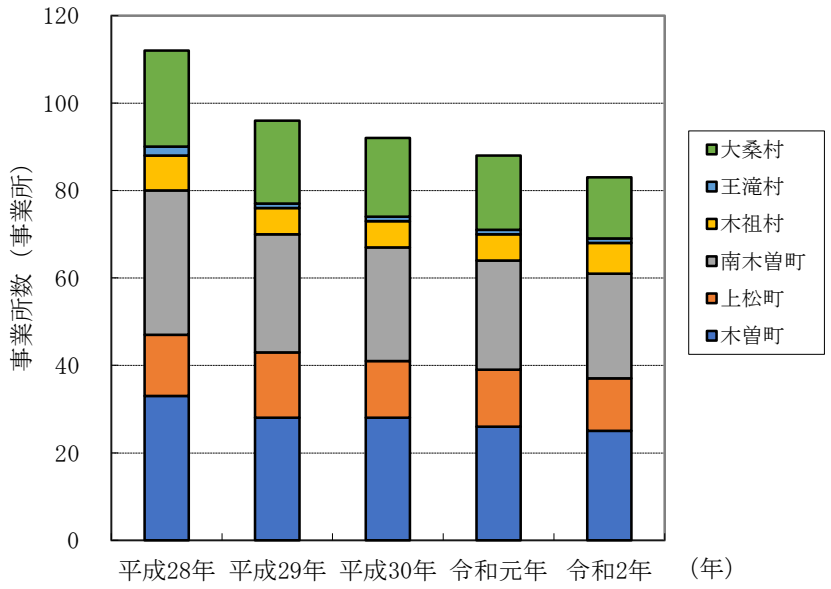
農林業センサス

図 2.3.3　林家数の推移

３．工業

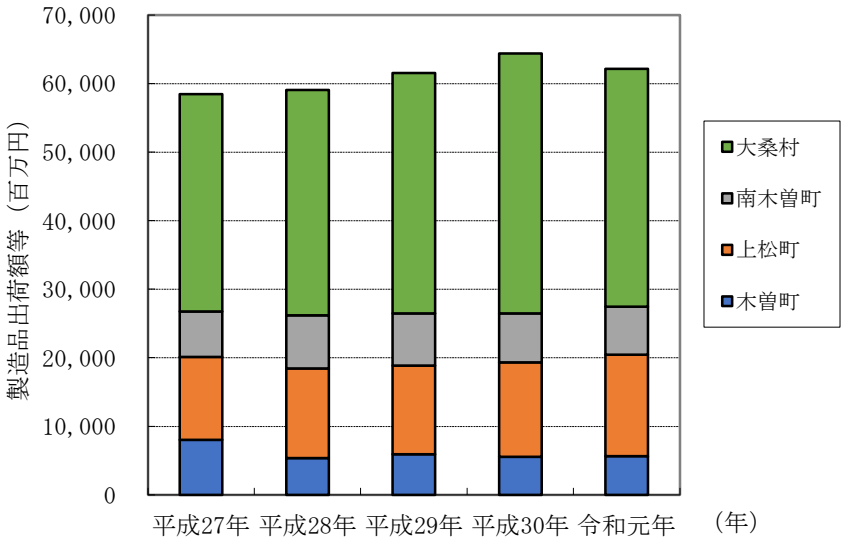
本広域管内の事業所数の推移を図 2.3.4 に、製造品出荷額等の推移を図 2.3.5 に示す。

事業所数は平成 28 年以降減少傾向にあるものの、上松町と大桑村の製造品出荷額等が増加しており、全体でも令和元年度に減少に転じたものの増加傾向にある。



工業統計調査

図 2.3.4　事業所数の推移



注）木祖村及び王滝村の値については、秘匿とされ公表されていない。

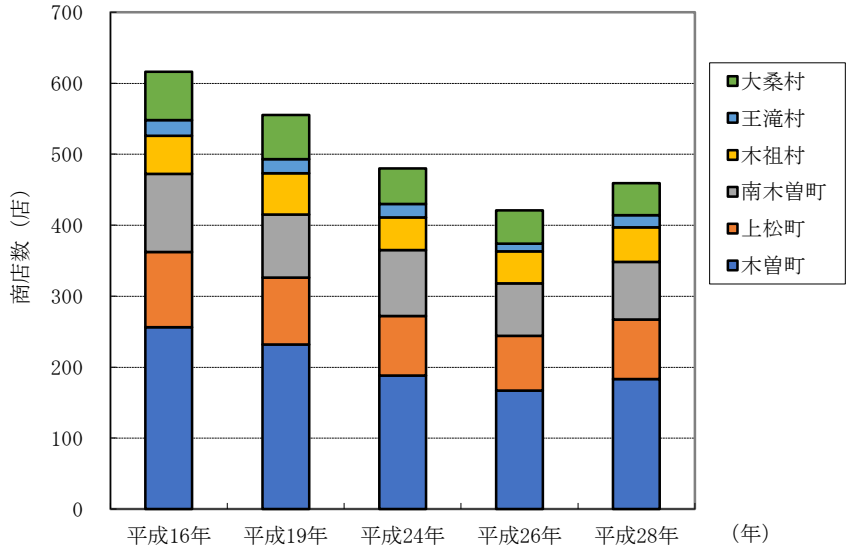
工業統計調査

図 2.3.5　製造品出荷額等の推移

４．商業

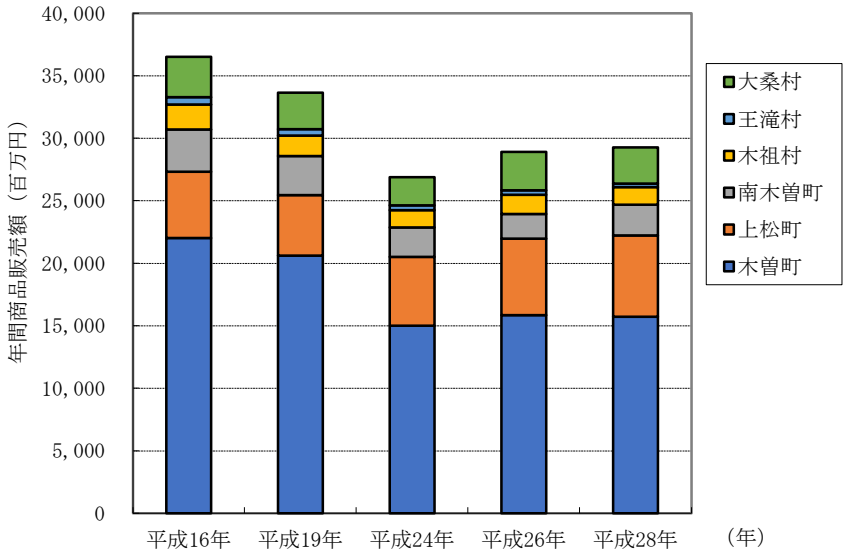
本広域管内の商店数の推移を図 2.3.6 に、年間商品販売額の推移を図 2.3.7 に示す。

商店数は減少傾向にあったが、平成 28 年に増加に転じている。年間商品販売額も減少傾向にあったが、平成 24 年以降は増加に転じている。



商業統計調査（平成 16 年、平成 19 年、平成 26 年）
経済センサス（平成 24 年、平成 28 年）

図 2.3.6　商店数の推移



商業統計調査（平成 16 年、平成 19 年、平成 26 年）
経済センサス（平成 24 年、平成 28 年）

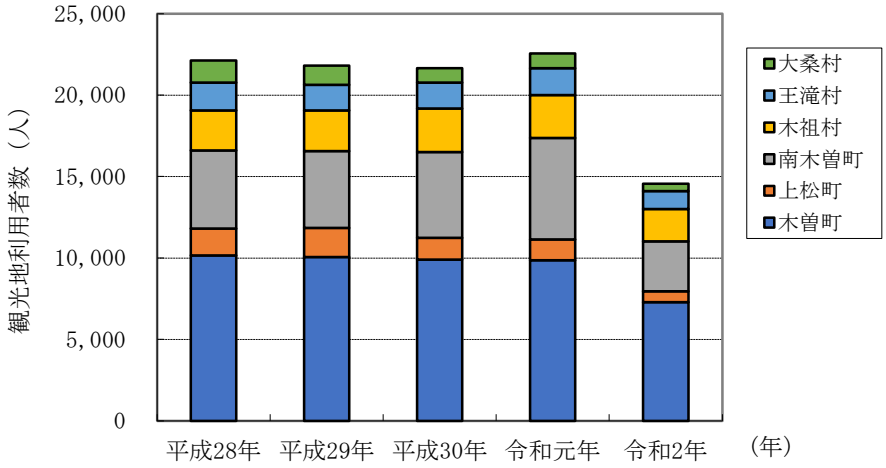
図 2.3.7　年間商品販売額の推移

５．観光

本広域管内の観光地利用者数の推移を図 2.3.8 に、スキー場利用者数の推移を図 2.3.9 に示す。

本広域は自然環境や歴史・文化遺産などに恵まれており、多くの観光地を有する観光・リゾート地域である。観光地利用者数は 220 万人程度で推移していたが、令和 2 年は、新型コロナウイルス感染症の影響により外出を控える人が増えたため、大幅な減少となっている。

一方、スキー場利用者数は新型コロナウイルス感染症の影響は限定的で横ばいで推移している。



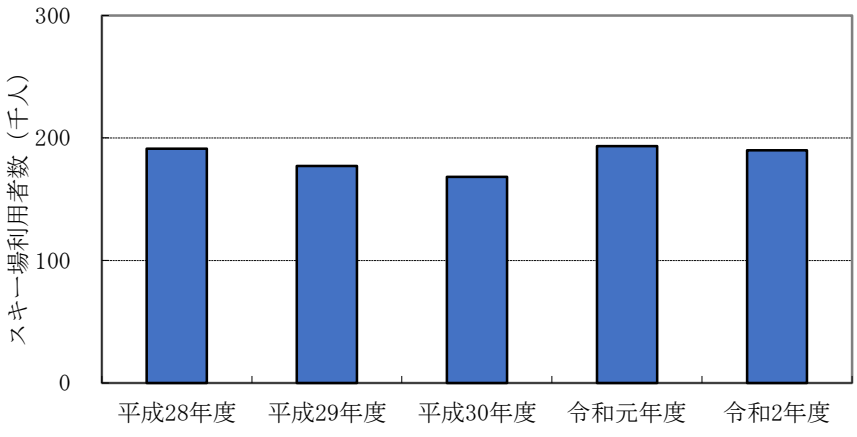
長野県　観光地利用者統計

図 2.3.8　観光地利用者数の推移

表 2.3.3　木曽広域管内の主要な観光地

	観光地（統計が行われたもの）
木曽町	木曽駒高原、木曽福島、徳音寺院、開田高原、御嶽山、御嶽の里
上松町	寝覚の床、中央アルプス木曽駒ヶ岳、赤沢自然休養林
南木曽町	田立の滝、妻籠宿、富貴畑高原温泉郷、柿其渓谷、南木曽山麓、南木曽温泉郷
木祖村	やぶはら高原、鳥居峠、奥木曽湖
王滝村	御岳山、御岳高原、王滝川渓谷
大桑村	定勝寺、阿寺渓谷、中央アルプス空木岳・南駒ケ岳・越百山、のぞきど高原

長野県　観光地利用者統計



長野県　観光地利用者統計

図 2.3.9　スキー場利用者数の推移